The 10th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology

JSMO Daily News

第10回 日本臨床腫瘍学会学術集会

Day.1 Day.2 Day.3

Friday 27 July, 2012

公開シンポジウム

がん対策基本法施行後 5年を振り返る これから必要ながん医療とは

総合司会
田原 総一朗氏

がん対策基本法（以下基本法）施行後、5年がすぎ、この6月には同法に基づくがん対策推進基本計画（以下基本計画）の見直しが行われ、2016年度までの基本計画が策定された。JSMO初の試みである公開シンポジウムではジャーナリストの田原総一朗氏を総合司会に、基本法後に浮き彫りにされた課題について白熱した議論が交わされた。

前半では主に、現時点までのがん医療の限界について議論がなされた。NPO法人がんと共に生きる会の濱本満紀氏は、基本計画の各施策を検証するためのシステムの必要性について言及し、緩和ケアがQOLの向上にどう結びつくのか、第三者による成果評価の重要性を指摘した。田原氏からは「医者は治す人であってほしい」との発言があり、中川会長が「がん医療の治療目標は治癒ばかりではなく抗がん治療を含めた緩和ケアで日常の生活を変わりなく、できるだけ長く続けることにもある」と述べた。

後半では、地域連携の実際について市民医療協議会の埴岡健一氏から、大阪府を一例に、拠点病院が充実し、がん登録日本一の大阪であっても、実際のがん死亡率はワースト5に入るという事実が提示され、地域間格差が大きな課題であることが改めて提示された。

患者に必要とされるがん医療を追求するため、新基本計画が走り始めた今、医療者、患者ともにさらなる努力が求められたシンポジウムであった。